

「介護」から「ケア」へ
—認知症者への「ケア」概念の検討—

○筑紫女学園大学 金 圓景 (7133)

〔キーワード〕 介護、ケア、概念

1. 研究目的

本研究は、社会福祉における「ケア」概念について「介護」との関係を通して検討することを目的とする。これまで社会福祉学上では、「介護」及び「ケア」は広範囲で数多く議論されてきたが、その区別が必ずしも明確にされてこなかった。言い換えると、「介護」と「ケア」の両者の使い分けについて十分に検討されることなく、混沌して使われている。しかしながら、それぞれの概念についての検討は、従来の研究でも行われてきた（広井2013；長谷川2014）。

本研究では、社会福祉学における「介護」と「ケア」がどういう場面で使われているのか、どのような違いがあるのかを明らかにしようとするものである。特に、認知症者に対応する援助手法として「介護」として取り上げるのか、それとも「ケア」なのか、両者の用語の使い分けへの検討を通して、今日における「ケア」概念を整理することを試みる。

なお、本研究は日本学術振興会の研究補助金若手研究 B（15K17231）「認知症の家族支援システム構築に関する日韓比較研究（平成27～30年度）」の助成を受けたものである。

2. 研究の視点および方法

本研究では、「介護」と「ケア」という言葉が歴史的にどのように使われてきたのか、またその概念整理は、どのように行われてきたのか、文献レビューを通して検討する。その際には、辞典的な意味での検討だけでなく、Cinii データベースを用いて幅広く検索し、ヒットした内容を検討・分析する。また、認知症者へのケア概念については、『日本認知症ケア学会』に掲載された論文を中心に検討・分析する。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会が定める研究倫理指針を遵守する。

4. 研究結果

関谷（1997）によれば、日本で「介護」という言葉が登場したのは、1892年からであると言われており、戦後に至るまで身体的な障害を持つ者や長期にわたる監視が必要な者が介護の対象となっていた。一方で、三井（2012；27）によると、「ケア」という言葉は1970年代より徐々に、従来の医療や福祉のあり方に対する批判として積極的に用いられるようになってきた。これは、Milton Mayeroff（1971）による“On Caring”で初めてケア論が整理され、国内でも多く引用されていることが関係すると思われる。このように、国内において「介護」と「ケア」の言葉の登場とその背景に違いがみられる。

また、「介護」という言葉は、「日常生活の遂行に援助を必要としている人たちを守り助けること」と一般的に解釈していることが多いと述べられている（三好 2006）。一方で、「ケア」の用語を使って語られている諸現象は非常に多様であるが、福祉分野においては現在のところ「介護」とほぼ同意語であると考えてさしつかえない（介護福祉用語辞典 2004）。

特に、認知症者への介護、またはケアの使い分けについて『日本認知症ケア学会誌』を中心に検討した結果、その使い分けのための操作的な定義や基準などの提示は見られなかった。しかし、論文での認知症介護と認知症ケアの使い方による違いを分析したところ、認知症介護は手段的・方法的な内容として取り上げる傾向が強く、認知症ケアは価値的または、システム作りに向けた使われ方がみられるのが特徴的であった。

5. 考察

本研究では、関連辞典や先行研究を検討した結果、様々な分野で広範囲で「介護」及び「ケア」の言葉が用いられているが、その使い分けについては必ずしも十分に検討されないうまま、使われ続けていることが確認できた。しかし、「介護」という用語には、社会福祉援助技術の視点が含まれているとはいえない。また、ケアワークは、介護等を含む上位概念として用いるとの根本（1993）の指摘を参考に、「ケア」は「介護」の上位概念であると整理できる。従って、今後の研究では「ケア」を中心に、社会福祉学における概念整理が必要であると言える。

これらの結果を踏まえた上で、本研究では、今後、認知症者及びその家族支援に関する調査の際には、な操作的定義を通して、「介護」と「ケア」の使い分けを試みる。しかし、今回の研究では、文献レビューに留まっているため、今後、実態調査を通して、さらに「介護」と「ケア」の使い分けの基準を深めていくことが課題として残された。